

## 第4回 都市交通・市街地整備小委員会

### 議事の概要

(事務局作成)

以下の内容について資料を説明後、

- (1) 今後の審議の進め方について
- (2) 幹線道路の整備のあり方について
- (3) 地区交通のあり方について
- (4) 物流の現状と課題について

討議し概要は、以下のとおり

#### ( 概要 )

- (1) 今後の審議の進め方について

異議なし

- (2) 幹線道路の整備の進め方について

「都市計画道路の見直し」については、見直し行為そのものにとどまらず、見直し結果がどのように整理されたか、今後、結果をどのように反映させていくのかが重要。

「モータリゼーション・スパイラル」は、新たな道路整備が進み自動車交通が増える、沿道の利便性向上に伴い土地利用が進み、交通の発生集中が高まることから、土地利用と連携した施策が必要だということはわかるが、その連携方策を具体的に検討すべき。

「骨格幹線道路網整備の考え方」については、従来と、これから行う施策の違いを明確にすべき。

「LRT導入空間の考え方」については、既存道路空間にLRTを導入するために車線を減らすという考え方のほかに、自動車と歩行者が同一車線で共存する空間づくりという考え方もあるのではないのか。

道路は、都市構造を根底から支えているが、各種機能をストロー効果のように外に押し出す場合もある。ミクロな推計や計算では整理がつかない。都心の魅力や質、機能がうまく回っているかというチェックが重要。

都市内では、駐車帯というスペースをどう考えるかが、断面再構築上大きな意味をもつのでは。

小委員会での目玉は、ある意味「交通戦略」を目標達成型で行うことにある。その中で、トラフィック機能を強くする、公共交通軸や歩行者優先地区もあると断片的に言い切るのではなく、これらをどう考えるべきかを整理し、常に「交通戦略」を意識できるレイアウトが必要では。

幹線道路の整備のあり方については、広域的な視点を含め、いくつかの都市の規模等を想定しながら、具体的なイメージをもって議論すべき。

都市から高規格幹線道路へのアクセスという視点も重要。

### (3) 地区交通のあり方について

電動車いすの利用が年々増えつつある。このような乗り物を道路空間でどう位置づけるかの検討も必要。

中心市街地の中には、トラフィック機能を担っている街道型の幹線道路がよくある。このような道路を含め、中心部を今後どうするかが地方都市共通の課題になっているのでは。

日本では、ヨーロッパの都市のように環状道路が整備され、その中で歩行者を優先させる構造を持つ都市が極めて少ない。トラフィックと地区交通をどう切り分けるが大きな課題

地区交通を考えるには、地域の道路空間が様々な意味で多様に使われている空間であるという意識を持ち、この大きな公共空間を地域としてどう活用していくのかという打ち出しも必要

中心市街地では、駐車場の配置と利用状況情報をどう提供するかを考えることが重要。

自転車等については、放置などの社会問題もあり、「住民等による地域の管理」などといった、市民団体等が商店街にある自転車を一掃するような運動をうまくバックアップしていく仕組みが必要。自転車駐車場の適正配置まで含め、トータルで考えるべき課題。

ヨーロッパでは、専用信号機を設置して自転車の走行をコントロールしているが、日本においても交通機関の1つとして自転車をしっかりと意識しなければならない。

地区交通における地域との合意形成にあたっては、こうすれば必ず合意できるというものではなく、プロセスの1つとして社会実験を行ってみる場合もあるが、現実的に難しいところがある。国としても、どのようなサポートの方法があるかを整理すべき。

#### (4) 物流の課題と現状について

物流交通の特性として、都市から発生する交通もあれば、通過する交通もあり、これらをセットで考えなければならない。しかしながら、これをコントロールする環状道路の遅れが物流の課題を難しくしている。

荷捌きについては、路上荷捌き、共同荷捌き、附置義務を一体で考え、整備に伴うインセンティブも考慮しなければ解決しない課題。

物流は、今後とも多品種を少量で輸送する傾向が続けば、ICチップを活用した混載ができないかという発想もある。また、自らが輸送するだけでなく、サードパーティが輸送するという考え方もでてくるのでは。

物流の合理化は、企業努力として取り組むことのほか、うまく受け皿を作りそれを誘導することも十分考えられるのでは。

( 5 ) 全体を通しての課題について

小委員会の最終とりまとめにあたっては、21世紀全体を見通すぐらいの視点が必要となるのではないのか。おそらく20世紀の価値観に比べ、21世紀の価値観は、かなり変わってくる。機能を追求する時代から快適性を追求する時代になっていくのではないのか。

中間とりまとめで、需要追随型から目標設定・戦略型への転換という打ち出しをしたのだから、これからの交通体系で何が必要なのかという視点も入れながら、ハイブリット、電気自動車という新しい交通システムや技術、知識を盛り込んでいくことも考慮すべき。

- 以上 -